介護施設

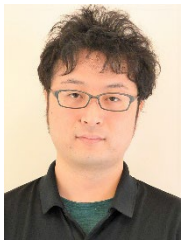
強力なチームワークでマッスルスーツ®活用中！綿密な導入計画と積極的な話し合いが成功の秘訣

特別養護老人ホーム
うねめの里

社会福祉法人 郡山福祉会
特別養護老人ホーム
うねめの里 (福島県郡山市)

逵 乃介 氏
介護課 課長

渡辺 浩幸 氏
介護課 フロアリーダー



村澤 顕一 氏
介護課 フロアリーダー

六角 圭一 氏
介護課 サブリーダー

小川 一輝 氏
介護課 サブリーダー

「介護が必要になっても自律した暮らしを続けていけるように」を大切にする介護施設

うねめの里は、ご利用者ご自身が有する能力に応じて可能な限り自律した生活を営むことが出来るように支援することを目的とした、特別養護老人ホームです。日常生活において常時介護を必要とし、かつ、居宅において介護を受けることが困難な方が利用しています。

施設でのあたたかい家庭的な落ち着いた環境の中で、自分の意志によって自分らしく自分のペースで生活できるよう、スタッフ全員がお一人お一人に合わせた対応に心掛けています。こういった心がけは「専門職としての自己研鑽を重ねること」や「謙虚な気持ちで人間性を高めること」といった法人の理念に基づいています。普段からスタッフ一同で様々なイベントやレクリエーションを企画し、ご利用者が「楽しい」と思える環境づくりを大切にしています。

慢性的な“腰痛対策”のためマッスルスーツ®の綿密な導入計画を立案

施設長と課長は、福島県の「介護支援ロボット導入モデル事業」説明会で初めてマッスルスーツ®と出会いました。

「腰の負担軽減効果を一番体感できたのが導入の最大の決め手です。また、“装着の容易性”が施設のオペレーションに合うと思いました。すぐに、“前傾姿勢維持のオムツ交換”でこれは使える！と思いました(課長 逵 氏)」。

導入期は、リーダー・サブリーダーに限定し、自身で使いこなし評価のできるスタッフ9名で評価を数値化して効果検証を行いました。約1.5か月の検証期間中に、課長を中心に意見を吸い上げ、問題点を洗い出し、どのように施設のオペレーションに組み込んでいくのかを話し合いました。

「“何のために使用するのか”という動機づけ、そして“どのような効果が見込まれるのか”といったマッスルスーツ®についての勉強会を、リーダーが集まりとにかく続けました(介護士 六角氏)」。

INNOPHYS

「マッスルスーツ®をうまく運用するためには導入目的を明確にし現場スタッフとしっかり話し合う事がとても重要です。皆で問題点を洗い出し、各自が当事者意識を持ち取り組んだ結果、運用に成功しています。」

社会福祉法人　郡山福祉会　特別養護老人ホーム　うねめの里
法人本部　人財育成研修室　介護課　課長　逵 乃介 氏

そのような会議の中で、グループ単位で利用する業務や時間、対象のご利用者を定めていき、オペレーションに落とし込んでいきました。現在では、各スタッフのマッスルスーツ®の使用目的が明確になり、違和感なく通常業務の中でマッスルスーツ®を活用することができています。

リーダー達が率先して使用

うねめの里では普段から様々な工夫を行っており、業務の導線上をマッスルスーツ®置き場にする、その日マッスルスーツ®を利用するスタッフの個人ロッカーにシールを貼る等、使いこなしやすい環境づくりを心掛けています。
導入以来、時間の経過とともにマッスルスーツ®の効果を感じるスタッフが大半を占めています。
「導入当初は装着に時間がかかるし重さも気になっていましたが、1ヵ月経過したあたりから慣れてきて、そこからはマッスルスーツ®の存在が当たり前になりました(介護士 渡辺氏)」。
「元々、私は腰痛持ちなのでマッスルスーツ®を装着することで、精神的な　安心感にもすごく繋がっています。排泄介助の際は終始装着したままで業務にあたっています(介護士 小川氏)」。

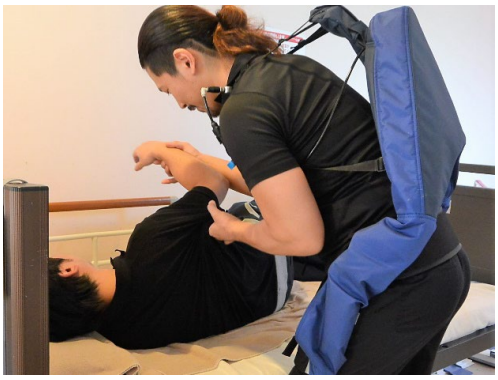
介護課のチームワークの良さが、マッスルスーツ®の運用を成功させている。

このようにリーダー達が率先して使用することで、介護現場での人材育成・教育にもつながると考えられています。
「マッスルスーツ®の導入が介助の方法の見直しに繋がりました。間違った介助方法を正せたこと、これは導入の二次的効果だと感じています(課長 逵氏)」。

使用率の向上と数値化を目標に

現在、うねめの里では、排泄介助だけではなく浴室での衣類の脱着介助でも使用することをルール化し、マッスルスーツ®の利用率をさらに上げていくような取組みを行っています。
「浴室での利用は特に夏場は暑くて汗が肩ベルトにしみこんでしまい使いにくかったのが残念です。その改良があれば利用率も上がると思います (介護士 村澤氏)」。
「今後の目標として、マッスルスーツ®の活用が腰痛対策になっていることを継続的に数値化し、使用効果の評価を行い効果を可視化することで、職場の浸透だけでなく、同じ悩みを抱えている方々へ介護支援ロボットを使用するメリットを伝えていければいいと考えています (課長 逵氏)」。

浴室前に設置されているマッスルスーツ®。脱着介助の際にすぐ使えるように常に業務の導線に置いている。



中腰の姿勢で、何名ものご利用者のオムツ交換・排泄介助を行っていると腰への負荷が大きく、ギックリ腰にならないかと不安になっていたスタッフも、現在ではマッスルスーツ®でその不安を解消し精神的にも安心している。

中腰維持での衣服の脱着では、マッスルスーツ®が大活躍。介護スタッフの身体を守る役割を担っている。

基本情報	
使用モデル	マッスルスーツ
導入時期	2017年2月(2台)、2017年10月(2台)
台数	4台
主な使用シーン	排泄介助、着脱介助、移乗介助
時間帯	日中、夜間 (約1~1.5時間x4)
使用人数	約10名
職種	介護福祉士

《お問い合わせ》
株式会社イノフィス
TEL: 03-5225-1083
Email:
Support@innophys.jp
Facebook:
https://www.facebook.com/innophys.jp/

生きている限り、自立した生活を実現する
東京理科大学発ベンチャー
～夢のようなロボットではなく、人のためのロボットを～
詳しくは https://innophys.jp/　をご覧ください。

©2017 INNOPHYS CO., LTD. All rights reserved
記載事項は予告なく変更される場合があります。内容の一部または全部をINNOPHYS CO., LTD.の許可なく使用・複製することはできません。マッスルスーツ®、INNOPHYSはINNOPHYS CO., LTD.の登録商標です。その他の記載のブランド、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

Facebook 始めました★
"いいね!"お待ちしています♪